

# 教育研究創発国際研修における学術活動報告書

令和 5 年 12 月 1 日

氏名 辻 優太郎

所属 学校開発政策 コース

指導教員名 村上 祐介 教授

1. 研究課題 国立大学法人運営費交付金における「成果を中心とする実績状況に基づく配分」の実施結果の分析（国際会議での発表）
2. 報告する学術活動の実施期間 令和 5 年 11 月 22 日 ~ 令和 5 年 11 月 24 日
3. 日本学術振興会特別研究員（DC）の現在の採用状況 DC1 DC2 採用無し
4. 学術活動
  - 国外 国内
  - ①英語論文公表
  - ②研究科教員の研究プロジェクト参加
  - ③フィールドワーク
  - ④国際会議（研究発表 運営補助 出席のみ）
  - ⑤研究会（研究発表 運営補助 出席のみ）
  - ⑥研究指導委託
  - ⑦留学
  - ⑧国際研修
  - ⑨国際インターンシップ
  - ⑩その他（具体的に： )

## 5. 学術活動実施の概要

※上記4で選択した学術活動について具体的に記載してください。括弧内の概要を必ず記載してください。

- ① 英語論文公表  
(著者、発表論文名、掲載誌名等、発表年月巻号、発表年月日等、論文内容の概要)
- ② 研究科教員の研究プロジェクト参加  
(プロジェクト名、代表研究者名、自身の具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、プロジェクトの概要)
- ③ フィールドワーク  
(調査先機関等、国名・都市名、具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、調査先の概要)
- ④ 国際会議  
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、学会・会議名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑤ 研究会  
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、研究会名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑥ 研究指導委託  
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究、研究テーマと受入教員、受入期間(年月日)、具体的な研究活動、研究発表内容等の概要)
- ⑦ 留学  
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究科、受入期間(年月日)、具体的な履修状況、研究発表内容等の概要)
- ⑧ 国際研修  
(プログラム名、派遣先機関、国・都市名、派遣期間(年月日)、プログラム概要、研究発表内容等の概要)
- ⑨ 国際インターンシップ  
(プログラム名、派遣先機関、配属部署、国・都市名、派遣期間(年月日)、具体的な活動、プログラム内容等の概要)
- ⑩ その他(具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度等の概要)

学術活動区分 (①～⑩を記入)	④
<p>【学会・会議名】 ERAS International Conference and WERA Focal Meeting 2023</p> <p>【国・都市名】 シンガポール</p> <p>【発表題目名、形式、予定年月日】 What leads to winning or losing? An analysis of the new performance-based funding for national universities in Japan (口頭発表、2023年11月24日)</p> <p>【発表内容等の概要】 近年、様々な国や地域において、高等教育機関の実績の事後評価に基づいて政府からのファンディングを配分する仕組みである <b>performance-based funding</b> が導入されている。日本も例外ではなく、2004年に法人化された国立大学の基盤的な財源である国立大学法人運営費交付金(以下「運営費交付金」)において、各大学(法人)の実績の事後評価に基づいて配分する仕組みが複数導入され、かつその規模が拡大してきた。しかしながら、その実態には不透明な部分が多く、各仕組みが運営費交付金の配分にいかなる影響を与えているのかという点は分析の途上にあると言わざるを得ない。本発表は、そうした仕組みのうち最大規模である、2019年に導入された「成果を中心とする実績状況に基づく配分」について、同配分で用いられる指標と、国立大学の学部構成および財務的特性に基づくグループの間にいかなる関係があるのかを分析するものである。これを通し、運営費交付金の配分実態の未解明という日本の高等教育研究の課題を解決するのみならず、高等教育機関に対する評価と資源配分の在り方に関する示唆を提示する点で、国際的な高等教育研究にも貢献する。</p>	

- (注) ① 年月日は西暦で記入してください。  
 ② 英語論文発表については報告する学術活動において発表又は受理されたもの。  
 ③ 上記に記載しきれない場合は、ページを追加しても差し支えありません。  
 ④ 複数回の学術研究活動による報告の場合、適宜本ページを追加し、2つ目以降についても必要な内容を網羅してください。

## 6. 学術活動による成果

※報告する学術活動について、教育分野における国際的リーダー人材の育成とその研究成果を海外に発信することを目的とした教育研究開発国際研修の趣旨に照らし、その成果を具体的に記載してください。学術活動により得られた自身の研究課題につながる成果についてもわかるように記載してください。

※本欄に書ききれない場合、ページを追加しても差し支えありません。

本活動では、教育学分野の大規模な国際学会である世界教育学会（WERA）の年次大会における研究発表を行った。発表は、日本の国立大学に対して国から交付される基盤的経費である国立大学法人運営費交付金において、近年拡大しつつある「成果を中心とする実績状況に基づく配分」が、多様な国立大学に対していかなる影響をもたらしているのかという点を、同配分で使用されている各指標の増減と国立大学のグループに着目して分析したものである。分析の結果、寄付金等の獲得実績に関する指標が、医学系単科大学に有利に働く一方、教育系単科大学や医学部を有さない総合大学に不利に働いていると見られることをはじめとした知見が得られ、評価の指標やグループ分け等の制度設計に関する示唆を得ることができた。

以上のように本研究発表は日本の国立大学を対象としたものであるが、当日の質疑応答においては、同配分における増減はどの程度重要なのか、評価を巡る議論はどのようなものであるのか、大学側はどのような対応が可能なのかといった質問を得ることができ、充実した議論となった。また、発表以外の時間においても、若手研究者との交流会への参加を通して、海外の研究者と知己を得ることができ、今後の研究活動の基盤を形成することができた。